デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2018年（平成30年）12月5日（水曜日）（21）

# 南部弁もっと親しんで

## 八工大生 標準語を翻訳、アプリ開発

## ″ネーティブ″な発音も

若い人に南部弁に親しんでもらい、方言の継承につなげようと、八戸工業大（長谷川明学長）の学生が、標準語を南部弁に翻訳するアプリ「OK，Hougen」を開発した。パソコンにつないだマイクに向かって標準語をしゃべると、対応する南部弁の音声が出る仕組み。試作段階のため、現在は事前に登録した限られた単語しか翻訳できないが、人工知能（AI）を活用するなどして将来的にはさまざまな言葉を南部弁に訳せるよう改良を重ねる考えで、学生たちは「楽しみながら南部弁に触れられるのが特長。若い人たちが方言に親しむ一助になれば」と意気込んでいる。

（須田山裕太）

標準語を南部弁に翻訳するアプリを開発した学生と指導する岩崎真梨子講師（左）＝4日、八戸工業大

開発したのは、同大基礎教育研究センターの岩崎真梨子講師(34)＝文法研究、方言学＝の呼び掛けに応じた方言研究会に所属する2、3年生の7人。今年4月から開発に取り掛かり、リーダーを務めるシステム情報工学科3年の佐藤和範さん(20)が中心となってプログラムを組んだ。

アプリには日常会話でよく使う76個の単語（標準語と南部弁）を事前登録しており、マイクに向かって登録されている標準語を話し掛けると、それに対応した南部弁が聞ける。

「OK，Hougen」の画面（岩崎真梨子講師提供）。音声波形も可視化し、アクセントなども分かる

例えば「もったいない」としゃべり掛けると、「いだわしねえ」、「駄目だ」は「わがね」と音声が流れ、続いて「アイス落どした、あ～あ、いだわしねえ」、「遅れで来ればわがねよ」との例文も付く。単語の音声波形を画面で表示し、どこにアクセントをつけるのかも分かりやすく示した。

音声収録には、長年にわたって南部弁の伝承活動に取り組む同市の柾谷伸夫さん(70)が協力。″ネーティブな南部弁″が聞けるのも大きな特長だ。柾谷さんは「全国的に方言を使わない若者が増えている中、アプリ開発はとても面白く心強い。南部弁の文化を守るために協力を惜しまない」と強調する。

一方、南部弁から標準語への変換には対応しておらず、研究は継続する。

今後は手軽に使ってもらうため、スマートフォンアプリの開発にも着手する方針。佐藤さんは「実用化まではまだまだだが、まずは若い人がアプリを使って南部弁に触れる機会が増えればうれしい」と力を込める。